

CAVOK 欧州航海日誌 2012年6月4日-6月14日

6月4日(月)Procida 曇り後雨

今日は寒冷前線の尻尾が通過するので島で休養することにする。

雨の降る前の午前中に島内観光をするため狭い島内の道を走るミニバスに乗って島の南側の Chiaiolella まで往復する。島の住民が利用するバスで乗り降りする人が多く島の生活を垣間見ることが出来た。

その後、来るときアンカーを打った Corricella に歩いて行く。小さな漁村だが家々の壁が色とりどりのパステルカラーに塗られ、港には小さな漁船が沢山係留され岸壁には 2, 3 件のレストランとバーが並び何とも言えないのどかな田舎の漁村の風景だ。



そのバーの一軒が映画「イル・ポストイーノ」の舞台になったところで撮影地を示す看板があった。その店の前でカプチーノを飲みながらのんびりと景色を楽しむ。

小さな漁船で網に絡んだ魚を取りだしている漁師さんがいたのでカサゴ 6 匹、イカ 2 杯、小ぶりのタコ 1 杯を 30€で売ってもらう。

夕方軽く湯通ししたイカ刺し、タコ刺しでビールとワインを楽しむ。カサゴは生トマト、ドライトマト、バジル、オリーブ、ガーリックで仕込んだアクアパッツアにした。新鮮なカサゴとスープが絶品の味であった。

6月5日(火)Procida~Capri(16NM)快晴

プロシダ島から 16NM と近いカプリ島だが 07:20 早めにもやいを解く。昨日の寒冷前線通過の影響でうねりが残っている。弱風だがジェネカターの風なので最初からジェネカーを揚げるがうねりの影響でダンバタンとして時々つぶれる。速度も 3 ノット以下なので 1 時間程セーリングしたが諦めてセールを降ろす。

青の洞窟を見に寄ったがうねりのため観光船は出しておらず沖合から青の洞窟らしきものを見て

マリーナグランデへ 11:50 に入港する。



ここはカプリ島の玄関口になりフェリー乗り場では沢山の観光客が乗り降りしている。マリーナの直ぐ裏は岸壁が垂直に高く聳え、遠方には山麓沿いの緑の中白い壁の家々が点在してきれいな景観だ。

今までの島と違い完全に観光化されたにぎやかな島だ。係留料も高く1泊195€も取られた。周りにはユニホームを着たクルーが何人も乗っているメガボートが数隻係留してあった。午後から青の洞窟を観光船で見に行く予定していたが案の定、午後もうねりのため就航しなかった。

艇でカプリの港風景を見ながらソーメンと昨日の残りのアクアパッツアでお昼を頂く。午後ケーブルカーでカプリ地区に上がる。上からの景色はきれいだった。ケーブルカーで降りたところにはお店が所狭しと並んでいる。ルイヴィトン等の高級ブランド店も多数あった。

我々は2回ほどカプリ島に来たことのある柴崎さんの案内でトラガラの展望台、ローマ遺跡のあるヴィラ・ジュビスを見て歩く。この島はローマ皇帝アウグストゥスが愛し次期皇帝ティベリウスが隠遁した歴史ある島だ。

今日は2万歩近く歩き艇に戻る。タコ刺しをつまみにビールとワインをデッキで楽しむ。

夕食は外食を予定していたが夕暮れ時の一杯からそのまま飲みだして外食を止めて艇でスパゲティ ポモドーロを頂く。

6月6日(水) Capri 快晴

昨日はうねりがあるため「青の洞窟」に入ることが出来なかったが今日は期待できたので朝一番で船の切符を買いに行くが9時の段階ではまだオープンできないとのこと、9時15分に再度決めるので待てということだったので待っていたらオープンする決定をした。

マリーナグランドから船で15分くらいのところに洞窟がありここで手漕ぎボートに乗り換える。順番待ちを大分して頭をボートの下に入るぐらい下げて一気に洞窟に入ると外の光線が洞窟内の海を見事なブルーに染めてきれいだった。歌の上手い船頭さんが洞窟内でカンツオーネを歌いながら

何周か周り「青の洞窟」の神秘的な美しさを満喫した。



艇に戻りお昼はソーメンを食べてから、アナカプリへ切り立った絶壁を小型バスで観光に行く。アナカプリではリフトに乗りソーラー口山に登り、頂上からナポリ湾、サレルノ湾を眺望した。

カプリは観光客も多く、多数の日本人にも会うことが出来た。観光地としてもローマから Ponza, Ischia, Procida 島と来たがカプリが一番賑やかであった。マリーナにはビッグボートが並び、周りの景観も素晴らしい。豪華な反面 マリーナの係留料も高く一泊 192€した。

夕食は中里のリクエストでカレーライスを頂く。やはりご飯を食べるとお腹が落ち着く。

6月7日(木)Capri~Amalfi(17NM)快晴

07:25 カプリの南側の泊地 Piccola に向け舳いを解く。Piccola は一昨日トラガラ展望台から眺望したところで上から見ても素晴らしい泊地だ。

その Piccola で暫く漂いイタリア半島ポジターノに向かう。ここから 12NM と近いので弱いヘッドウインドを受けながらクローズホールドでセーリングを楽しむ。

ポジターノはアマルフィ共和国の一部として 9~11 世紀にかけて大繁栄したところで現在高級リゾート地として人気のあるところだそう。海から見た街並みは典型的なイタリア地中海式の景観である。

ここでアンカーを打ち景色を見ながら昼食は、ラーメンのつけ麺を頂く。2 時間程休んだ後 7NM 先のアマルフィに向かう。

アマルフィは小さな狭いマリーナなので係留場所の確保が心配だったので前日インターネットで予約を入れておいた。そのおかげで港に入る前にマリーナのスタッフがラバーボートで出迎えしてくれ誘導してくれた。誘導なしでは入れない狭いマリーナであった。直ぐ前にレストランがありアマルフィの町から近く景観も素晴らしく気に入った。

いつも通り艇でお疲れの一杯をやってから町に繰り出し町の雰囲気を楽しむ。

夕食は CAVOKV の係留してある真ん前にあるレストランで、それぞれスープ、スパゲッティー・ボンゴレー、スパゲッティー・ラ・マレー、魚のグリルを食べるがデザートのリモンケーキがここの名物だけあって美味しかった。最後はレモンチェロで仕上げた。アルコール分が強いが仕上げにはもってこいだ。

6月8日(金)Amalfi 晴れ

今日はレンタカーを借りてポジターノ、ソレントを含めたソレント半島をドライブすることにした。海から見て素晴らしかったポジターノそしてソレント半島沿いの断崖沿いの道を陸から辿ることにした。

ポジターノの手前にエメラルドの洞窟があるのでそこに寄ったが鍾乳洞に海水が入ったところで青の洞窟とは比較にならなかった。

ポジターノは素晴らしい町で車では街の中腹までしか入れず白い細い路地を降りて行かなければならず、ドライブウエイからから景観を楽しんだ。ドライブの途中時々車を止め眼下の眺望を楽しんだが、断崖沿いの曲がりくねった狭い道ですれ違いもありドライブには気を使った。

ソレントに行く途中でヴェスヴィオ山を背景にナポリ湾、そして眼下にソレントを見渡せる眺望のよいテラスのあるホテルを見つけそのテラスで昼食をとる。民謡「帰れソレント」のソレントは思ったより大きな街だった。

残念ながら悦子は少し風邪気味ということで今日のドライブには参加しなかったが中里が持ってきてくれたお稲荷で稲荷鮎を作ってくれていた。

イタリア料理はおいしいが日本食を食べ慣れている我々にはイタリア料理が続くと胃腸が変調を来す。時々日本食は胃腸を整えてくれる。

6月9日 Amalfi~Salerno(7NM)晴れ

17日までの予定の柴崎さんが仕事の急用ができて急遽10日に中里と帰ることになった。サレルノからはローマに行く電車が出ているので帰国するのに便利なのでアマルフィから7NM 先のサレルノに行く。9:15に舳いを解き、海岸沿いを見ながらサレルン湾をセーリングで楽しむ。

土曜日のせいもあって多数のヨットがセーリングを楽しんでいる。OP デンギーが50隻以上セーリングしているのが印象的だった。

サレルノは3つのマリーナがあるが燃料の給油できるPorto Turistico Masuccio Salernitanoの給油スタンドに12:30着ける。給油は107L入ったが満タンにして航海を始めてから42時間エンジンを回したので平均一時間当たり2.5Lの燃料消費量だ。

ここは町に一番近いマリーナで駅にも歩いて行ける場所にある。丁度昼休みでマリーナのオフィスは開いてなくフェリーの着く岸壁に横付けして16時まで待つ。その間柴崎さん、中里は帰りのために駅を調べがてら街に出かける。

16時にオフィスに人が来てポンツーンにいつもの通りスターンからの槍づけをする。二人が帰ってくるまで悦子とジントニックを心地よい風を浴びながら楽しむ。

サレルノは今までの町と違い近代化された都会の感じだ。第二次世界大戦の時に連合軍が上

陸して大分破壊されたようだ。

皆さんが戻ってから暫くデッキで一杯やる。外食予定であったがおつまみで結構お腹が膨れたので急遽外食を止めてラーメンで済ますことにした。

6月10日(日) Salerno~Acciaroli(34NM)曇り後晴れ

今日柴崎さんと中里がここから下船して電車でローマ迄行き帰国する。

8時に二人に見送られアチェロリに向かう。港で手を振られて見送られるのは何とも言えない寂しさを感じる。ローマからここまで2週間の航海であったが Ponza、Ischia、Procida、Capri 島と中身の濃い島めぐりであった。天候にも恵まれ大変楽しい航海が出来感謝している。

出港して2時間程は向かい風の微風だったので機走したがその後予報通り風が西に回り良い風に恵まれ気持ち良いセーリングをする。今年初めての悦子と二人だけのセーリングになりこれからベニスまで二人で航海を楽しむ予定である。

サレルノ湾を過ぎてからは大きな街はなく所々にレモン畑の間にきれいな村が点在する景色を見ながらセーリングする。これから本格的な南イタリアだなという空気を感じさせてくれた。昨年ポルトガルで仕入れたトローリングロッドで初めて魚をゲットした。70cmほどのカマスで今晚のおかずの楽しみになった。

15時にアチョロリに入港する。ここはホームページも電話、VHF の記載もないので入ってから給油スタンドに横付けしてオフィッスに聞きに行ってからスターン着けする。横風の強いときのスターン着けは難しい。

隣にはチェコのグループがヨットの上でにぎやかに飲んでいる。お互いにエール交換をしたら15世紀からの老舗のチェコのビールをプレゼントしてくれた。我々は日本茶のミニ缶をプレゼントした。

ここはヘミングウェイが滞在して「老人と海」の構想を練ったところだそうだ。当時のホテルは残念ながら営業はしてなく廃墟だけが港の前に残っていた。小さな漁村でヘミングウェイが愛した環境を垣間見ることが出来た。

いつも通り舳れを取った後デッキでお疲れの一杯をやってから歩いてみたが日曜日でレストラン以外店は開いてなかった。ジェラードをバーのテラスで食べながら港の景色を眺める。

夕食はカマスを塩焼きにして食べた。久しぶりの焼き魚でおいしかったが。半身で二人のお腹が一杯になった。

6月11日(月) Acchiaroli~Maratea(40NM) 快晴

今日も素晴らしい朝を迎える。昨日の残りのカマスと貝の味噌汁とご飯の朝食を食べて 8:30 に舳れを解く。こここのところ朝は凧で昼からやと風が吹くパターンだ。サレルノを過ぎてから南イタリアの牧歌的な景色が海岸線に見える。

昼から吹き出した風でジェネカーを開き静かな海面を滑る。機走とセーリングでは気分が雲泥の差だ。ジェネカーはある角度を持たないとスピードがつかないが真追っ手の時はメインと観音開きにして走ると結構スピードを保つ。

16時に入港、ここも小さな漁村でこじんまりして心地良い。港の前のバーでいつもの到着の乾杯をビールとする。

港を見下ろすテラスのあるレストランを見つけ夕食はそこで夕陽が沈むテレニア海を見ながらする。イカのカルパッチョ、蒸しムール貝、イカスマリゾット、スパゲティボンゴレを地元カラーブリア産白ワインで食べる。家族経営のようなレストランで感じよく味も工夫しており美味しかった。

6月12日(火)Maratea~Cetraro(35NM)快晴

08:20 凧の中出港する。気圧配置のせいかいつも同じような風だ。

昨日から続いている海岸線を見ながら機走するが海岸風景は海から直ぐ高原に続くような景色で海の青と陸の緑に囲まれた中、山麓に小さな村が点在している。時折密集した町が高い丘の上に見える。陸から訪ねてみたいところだ。

昼からの風でジェネカーを張ったが3~4ノットの風では3ノット前後のスピードだ。今日はあまり長いレグでないのでスピードは遅いが帆走する。

16時に入港して舳れを取る。ここは町から離れたマリーナで隣が海水浴場になっている。日焼けした体を海水浴で冷やす。こここのところコインランドリーがなく洗濯物が溜まったのでバケツで洗濯する。

悦子が暑気あたり気味なのでゆっくりと休むことにしていつもの街の探索は止める。

夕食は皆さんの差し入れの佃煮、梅干しでお茶漬けを頂く。

6月13日(水)Cetraro 快晴

セーリングが続いたのと悦子が暑気あたり気味なので観光兼ねてここで休むことにした。

チェトラー口のマリーナは旧市街が丘の上に見える眺めが良好だ。ただしマリーナの周りには何も無く不便である。

昨日走りながら見た岸の風景が印象的だったので今日はレンタカーで丘の上にある村や旧市街を訪ねる予定で昨日マリーナのスタッフにレンタカーを頼んだが生憎と車がないということで鉄道とバスで訪ねることになった。マリーナのスタッフは親切でレンタカーがないのは“Unfortunate”だといって駅まで車で送ってもらった。

昨日泊まったマラテーアまで1時間程かけて行き駅からバスで丘の上の旧市街に上がった。フランスで見た鷹巣村のように丘の上の狭い地域にびっしりと建物が狭い路地を挟んで建っている。お土産屋さんが少しあったので夏のシーズンには観光客も訪れるようだ。

この丘の上から建物の合間に見る海辺の景色も実に美しい。写真を撮るが見た目のような美しいパノラマがレンズに映るか自信は無い。

お昼はここでスパゲティ・ペスカトーレとピッツァ・マルゲリータをビールとワインで食べる。

帰りチェトラー口の駅で今日と明日の分の食事の買い物をする。タクシーがあるか聞いたらタクシーはないとのこと、それほど田舎だ。仕方なし約2kmの道を海岸沿いに歩く。

マリーナに 19 時過ぎについてシャワーを浴びて夕陽を浴びて輝く旧市街を見ながら一杯楽しむ。

最近お昼を外食すると量が多いのでお腹が膨れて夕食が進まない。そんなわけで今日は鳥のヒレをグリルしてあっさり味で頂く。

観光した後艇に戻るとホットする。海に居るのが一番性に合っているようだ。

6 月 14 日(木)Cetraro~Tropea(50NM)快晴

50NM 先の Tropea に向かうのでいつもより早めの 07:00 に出港する。高気圧で覆われているため天気は快晴だが朝方はいつも凧だ。今日も 10:00 まで機走で走りその後北西の良い風が吹き出しジェネカーを揚げ 7 ノットの速度で走る。

Pilot Book に拠ればこの時期、テレニア海では北西から北東の風が卓越すると書いてあるがその通りだ。お昼はハムサンドをビールで頂く。

16:00 ごろから風が落ちたので機走に変えて 17:00 に Tropea に入港する。

ここはイタリア半島からのエオリエ諸島への基地になるようで珍しく米国の艇も来ていた。その艇は Stromboli 島で火山の噴火を見てきたそうだが灰まみれになり一日艇の清掃に有したそうだ。ここは大きくて静かな良いマリーナだ。休養兼ねて 2 泊することにする。

夜は昨日の鶏ヒレをご飯と頂く。鶏肉はあっさりして胃を休める。